

環境白書の刊行に当たって

世界気象機関（WMO）によると、2025（令和7）年の世界平均気温は観測史上3番目に高い水準となり、2023（令和5）～2025（令和7）年の世界平均気温の産業革命以前と比較した上昇幅は1.48℃と、パリ協定で掲げる平均気温の上昇を1.5℃に抑える努力目標に迫る水準となっています。

群馬県でも、2025（令和7）年8月に伊勢崎市で国内統計史上最高となる41.8℃を観測し、2026（令和8）年には、最高気温40℃以上の日が新たに「酷暑日」と定められるなど、かつて経験したことのない暑さが身近で現実的なものとなっています。

気候変動は、災害の激甚化や農林業への影響、健康被害の拡大など、県民生活や地域経済の基盤を揺るがしかねない大きな課題です。だからこそ、私たちはこの問題に真正面から向き合い、将来世代に責任ある行動を取らなければなりません。

こうした認識のもと、群馬県では、2040（令和22）年に目指す将来像である「豊かで持続的に発展する環境県ぐんま」の実現をより確かなものにするため、2026（令和8）年3月に「群馬県環境基本計画2021-2030」の中間見直しを行いました。

今回の見直しでは、温室効果ガスの排出を全体として実質ゼロにする取組「ネット・ゼロ」、資源を循環させ廃棄物を削減する経済モデル「サーキュラーエコノミー」、そして生物多様性の損失を止め回復軌道に乗せる「ネイチャーポジティブ」の3つを施策分野を貫く横断的な視点として、新たに位置付けました。これらの視点のもと、各施策を統合的に推進することにより、環境と経済の好循環を生み出し、「豊かで持続的に発展する環境県ぐんま」の実現を目指してまいります。

ネイチャーポジティブについては、群馬県が全国の都道府県に先駆けて「ぐんまネイチャーポジティブ宣言」を行うなど、重点的に取組を進めている分野です。2026（令和8）年3月には「ぐんまネイチャーポジティブ戦略（2026-2030）」を策定し、生物多様性の保全と社会経済活動が両立する社会の実現に向けた取組を本格化させました。群馬県の自然の恵みをさらに豊かなものとして次世代へつないでいくため、多様な主体と連携しながら、ネイチャーポジティブの実現に全力で取り組んでまいります。

この「環境白書」は、群馬県の環境全般の現状を明らかにし、多岐にわたる環境問題の解決に向けた取組の実績及び2026（令和8）年度に講じる施策についてまとめたものです。県民の皆様が本書を通じて、群馬県の環境の現状や将来に関心を持ち、「群馬県環境基本計画2021-2030」で定める将来像「豊かで持続的に発展する環境県ぐんま」の実現に向けた行動を始めるきっかけにいただければ幸いです。



2026年9月

群馬県知事

山本 一太